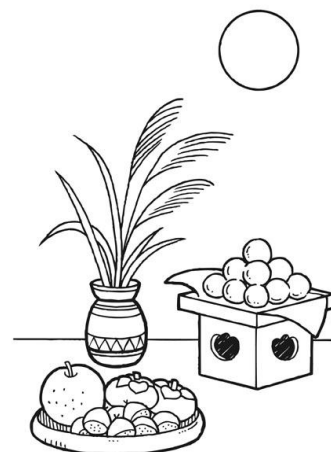


9月 給食だより

令和8年9月1日
発行

残暑厳しい季節ではありますが、朝夕の風は日ごと秋の訪れを感じられるようになってきます。9月は十五夜やお彼岸など、食にまつわる行事があります。古くからの行事はぜひ子どもたちに伝えていきたいですね。

十五夜と十三夜



月見は旧暦8月15日（新暦9月）を十五夜、旧暦9月13日（新暦10月）を十三夜と呼んで一番月が美しいとされている時期に、お供えをして月見をする風習が中国から伝わりました。

十五夜は里芋の収穫時期であることから「芋名月」とも言われています。月見に欠かせない丸い団子やすすきは魔除けの意味があるとされていました。

十五夜は中国から伝わった行事ですが、十三夜は日本で大切にされてきた風習で、月見団子の他にその頃に収穫される栗や大豆を供えることから「栗名月」「豆名月」とも言われています。

十五夜と十三夜のどちらかだけを見ることを「片見月」といって縁起が悪いとされていました。

今年の十五夜は9月25日。
十三夜は10月23日です。
きれいな月が見られると
いいですね！



お彼岸

昼と夜の長さが同じになる「春分の日」と「秋分の日」を挟んだ前後3日の計7日間を「彼岸」と呼び、この期間に仏様の供養をすることと、春の種まきや秋の収穫とも結びつき自然や先祖への感謝の気持ちにもつながり大切な行事となりました。

おはぎとぼたもち

おはぎもぼたもちも餅米とあんこで作られた同じ食べ物です。それぞれのあんこに似た色の季節の花から秋が萩の花から「おはぎ」、春が牡丹の花から「ぼたもち」と言われています。小豆は古くから邪気を払う効果がある食べ物として食べられており、それが先祖の供養と結びついてたと言われています。

